



瀬戸内海に浮かぶ万葉の島

色づく山桜 神が舞い 人が祈る

山口県上関町祝島観光パンフレット

祝島までのアクセス



定期船時刻表・運賃

上関航運 ☎(0820) 62-0102 (2009年7月現在)

時刻表	行き	柳井港	室津	上関	蒲井	四代	祝島
	1便	—	6:00	—	—	—	6:28
	2便	9:30	10:00	10:05	10:15	10:25	10:40
	3便	15:30	16:00	16:05	16:15	16:25	16:40
時刻表	帰り	祝島	四代	蒲井	上関	室津	柳井港
	1便	6:35	6:50	7:00	7:10	7:15	7:45
	2便	12:30	12:45	12:55	13:05	13:10	13:40
	3便	17:00	17:15	17:25	17:35	17:40	—
運賃	柳井港⇄祝島	1530円 (小人770円)					
	室津⇄祝島	900円 (小人450円)					
	上関⇄祝島	900円 (小人450円)					
	蒲井⇄祝島	650円 (小人330円)					
	四代⇄祝島	530円 (小人270円)					

チャーター船

ヤンマー (岩本)	☎(0820) 66-2040
清水丸 (清水)	☎(0820) 66-2206
祝島丸 (石丸)	☎(0820) 66-2016

問合せ先

上関町観光協会	☎(0820) 62-1093
上関町役場 (総合企画課)	☎(0820) 62-0316
上関町HPアドレス	http://www.d2.dion.ne.jp/~k_yakuba/
上関町携帯電話版HPアドレス	http://www.d2.dion.ne.jp/~k_yakuba/index.html



携帯電話で右バーコードを読み取って上関町携帯電話版HPから祝島HPにアクセスすることもできます (ソフトのバーコードリーダーが付いている携帯で利用可)。

山口県指定無形民俗文化財

かんまい

祝島の神舞

伝承によれば、仁和2年(886)8月、豊後国伊美郷の人々が、山城国岩清水八幡宮の分霊を奉持し、海路下向中瀬にあい祝島三浦湾に漂着した時に始まる。

当時この地には三軒の民家があった。住民は厳しい自然環境の中、苦しい生活であったが一行を心からもてなしたという。それを機縁に、荒神を敬い大歳御歳の神を祭り農耕を始めた事により島の生活は大きく向上した。それからはおれにと伊美別宮社に「お種戻し」と称し毎年参拝するようになった。そして、四年に一度別宮社から20余名の神職、里楽師を迎え、祝島を斎場に、神恩感謝の合同祭事を行うようになり今日に至っている。

この祭りは、山口県と大分県と海上49キロを御座船が往復し、大漁旗で飾った奉迎船や權伝馬船が織りなす勇壮な海上絵巻の入船出船の神事が行われ、新調の苫で覆われた仮神殿で、伝統ののっとり、古式豊かに神楽が奉納される。(祝島の神舞が「第四回むらの伝統文化顕彰」において、最高の農林水産大臣賞を受賞。《参考：2004年神舞》)



万葉の碑



祝島は古くから交通の要衝として知られ、行き交う船の航行安全を守る神霊の静まる島として崇められてきた。

祝島から姫島を経由して国東半島へ至る航路が先史・古代における最短コースであり、西下する時の最後の中継地として、祝島は都の人々にも広く知られていた。

このことは「万葉集」にも見ることができ、

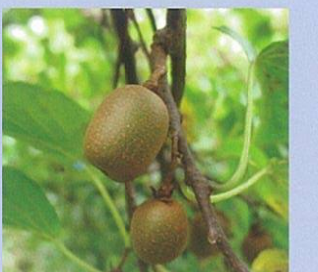
碑に刻まれた次の二首は、736年遣新羅使一行が祝島沖を航行中に詠んだといわれるもの(万葉集巻15 遣新羅使人)。

家人は 帰り早来と祝島 斎い待つらむ 旅行くわれを
草枕 旅行く人を 祝島 幾代経るまで 斎ひ来にけむ

不老長寿の実 こっこう

二千二百年の時空を越え、語り継がれるロマン「祝島の徐福伝説」。その蓬莱の島で実るこっこう(コッコウ)は、食すれば千年長生きするといわれ、島内各所に自生している。大人の親指先位の大きさと、キウイフルーツの原種ともいわれる。

熟せば生食は美味だが、希少なので主に果実酒や羊羹にされる。長年かけて熟成された古酒は、神仙の風味を醸し出す。



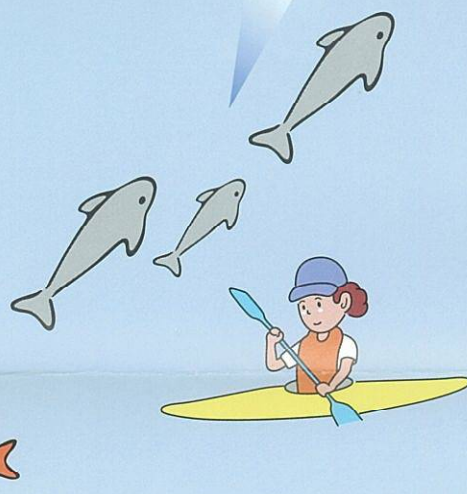


拡大図です。

瀬戸内海(周防灘)

スナメリ

スナメリは世界最小の鯨です。祝島の周りにも多く生息しており、特に春は出産のシーズンで子連れのスナメリの群れが見られます。背びれが無いので見つけるのは難しいですが、運がよければ定期船から見られるかも？



アコウの樹

クワ科の高木。台湾や東南アジア、国内では沖縄や四国、九州の海岸などでも見られますが、祝島が北限と言われています。桂木大明神近くに自生。



祝島の特産



ひじき

島のひじきを昔ながらの方法で、鉄の大釜と薪でじっくり時間をかけて炊き、天日で干しあげました。水で戻してそのままサラダで食べられるほどの柔らかさが自慢です。「祝島のひじきを食べたらよそのは食べれん！」と大人気！



干しダコ

周防灘の新鮮な真ダコを、夏の暑い日差しと浜風で硬く干しあげました。タコ飯にするとタコの旨みと潮の風味がたまりません。祝島のタコは、他にもゆでダコや燻製などが人気です。



びわ

祝島といえばびわ。島には昔からびわが自生しており、盛んに栽培されています。びわの旬は5月下旬から6月中旬。農薬を使わずに育てられた祝島のびわは、なんといっても甘さと香りが最高です！



石豆腐

にがりでなく海水で固めた祝島の豆腐。この豆腐の硬さは縄で縛って持ち歩けるほど。豆の旨みが凝縮されているうえに煮崩れせず、煮しめには欠かせない島の名物です。



びわ茶

農薬を使わず栽培されている祝島のびわ、その葉は昔から島の人たちにお茶として愛飲されてきました。煮出して熱いまま飲んでも、冷やして飲んでも美味しくいただけます。



サヨリ一夜干し

刺身で食べられるほど新鮮なサヨリを、島のおばちゃんたちが干した手作りの味です。冬の寒(西風)で柔らかく干したサヨリは、サヨリ本来のしっとりとした味わいが魅力です。



祝島ならではの土産をどうぞ。



こっこう



みかん

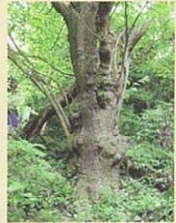
問合せ先 上関町特産物センター ☎0820-62-1093 祝島市場 ☎0820-66-2538

クサフグの産卵場



ケグワの巨樹 (県天然記念物)

県指定の天然記念物。別名ノグワと呼ばれ栽培種の桑と異なって葉に毛が多いのが特徴的です。根回りは約4メートルにもなり国内でも有数の大木。この木の他にも町指定のケグワなどが三浦湾側に多く点在しています。



平さんの石積み棚田

農業平万次氏の祖父と父が二代で築いた棚田の高石垣は、最も高いところで9メートルあり、棚田の石垣では日本で最大級。V字型の空間に石を落としこんでいく谷積みと呼ばれる手法が用いられ、数トンもある巨石から小石まで理想的に配列しています。



とても迫力があります。



北 祝 島 全 島 マ ッ プ 東

山 桜

春は桜の名所として有名で、色とりどりの山桜が全島に覆われる様はまるで霞がかかったようで、海上吉野の千本桜と称されていました。北野ため池辺りや三浦湾一帯に特に多い。



祝島は上関町の南西にあり、周防灘に浮かぶ周囲12kmほどの島です。柳井港から連絡船「いわい」が1日3便、室津、上関を経由して所要時間65分で運航しています。最終寄港地の四代からは15分です。豊後水道を北上する黒潮に洗われる祝島は1年を通じて温暖で、びわやみかんをはじめ果実類の産地と知られ、また海岸は岩礁が多く、高級魚の宝庫となっています。

タ イ

祝島の魚といえば一本釣りの鯛。天然の真鯛の美しい赤は、島の青い海によく映えます。刺身に塩焼き、煮付けに潮汁と、やはり鯛は魚の王様。祝島では遊漁船に乗って魚釣りを楽しむこともできます。(連絡先: 県漁協祝島支店 ☎0820-66-2121 要予約)



集落が見えてきた!

定期船
いわい

この辺りにあったといわれています。

ここから分かれ道。

よぼし
烏帽子
浮き灯台



祝島漁場風景

やまそうづ
山惣津遺跡・カタイ遺跡
弥生時代の土器が発掘された。古代遺跡に関しては徐福伝説にまつわる遺跡か?



ぎょうじゃどう
行者堂

平家塚
平の景清(平家の侍大将)の墓と言伝えのある積石塚。景清は大幹長大にして勇力なるを以て聞こえ、平家一門とともに西走して各地で転戦。平家滅亡後の動向は諸説ある。

修験道界の大先達と仰がれている山伏の開祖、役小角(えんのおつぬ)が祀られている。九州へ修行に行った折、祝島に立ち寄ったといわれ、ひとは入試・入社祈願の参拝者が絶えなかった。現在もお堂の管理は島民に受け継がれている。

祝島の行楽

- 春** 山歩き 花見 山菜摘み
- 夏** 神舞(4年に一度) 不老長寿マラソン シーカヤック 海水浴 クサブグの産卵
- 秋** 山歩き 草花ウォッチング
- 冬** タ日 ウォーキング

一年中、遊漁が楽しめます。

祝島の植物

- 春** ヤマザクラ オドリコソウ ヨモギ ノビル レンゲ スミレ ハルリンドウ
- 夏** ミカンの花 ノシラン ヤブラン ビワ ツククサ ハマヒルガオ ウバユリ
- 秋** ノジグク アキノノゲシ ムラサキシキブ ビワの花 果実(アケビ ミカン)
- 冬** ツワブキ スイセン ナノハナ ナズナ ハハコグサ ハコベ ホトケノザ



オドリコソウ



スズシロソウ



レンゲ



祝島集落マップ

よ～きまいたのんた。ゆうにせませえ。

全島民が暮らす祝島の集落は北東に面し、主に漁業と農業を営む人口500余人の小さな集落です。定期船乗り場に降り立ち集落に入り込むと、昔ながらの生活道と石積みの練堀が旅人を異空間へと導いてくれます。集落を抜け、行者堂や平さんの石積み棚田の方面に足を伸ばすと、ピワやミカン畑、大小の石積み、点在する島々、まばゆいほどの銀の波が印象的です。遠方には四国の佐田岬半島や九州の国東半島を望むこともできます。三浦湾方面に出向くと左手に絶壁が続き、小祝島の彼方に沈む夕日が一瞬の表情を見せるなど、祝島の自然と歴史は素朴だけれども力強く私たちに語りかけてくれます。

祝島日帰りコース



裏面の定期船時刻表を見てね。

行き第2便

集落散策(石積み練堀・万葉の碑など) → 帰り第2便

遠出(行者堂・平さんの石積み棚田・三浦湾方面など) → 帰り第3便



万葉の碑



神舞神殿



神舞行列



石積みの練堀

祝島の集落にはほかにいろいろな顔をもった練堀があります。



石積み練堀の集落が「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に選ばれたらしいで。すごいんた。



宿泊施設

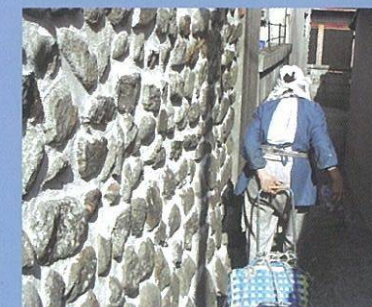
- 宿 はまや旅館 7室20名
☎(0820) 66-2018
- 宿 みさき旅館 5室20名
☎(0820) 66-2001
- 宿 民宿くにひろ 5室10名
☎(0820) 66-2053

販売店

- 漁 県漁協祝島支店
- 店 重村商店
- 店 えべす屋
- 店 坂本商店
- 店 薬師商店
- 店 金万和洋酒店
- 店 山本商店
- 店 三藤商店
- 店 大津商店
- 店 岡部電気店

販売品

- 祝島特産物(平日のみ)
- 酒・たばこ・薬
- 食料品・日用品・お弁当・祝島特産物
- 酒・米・特産品
- 食料品・たばこ
- 酒・日用品
- 食料品・お弁当
- 食料品・日用品
- 食料品・日用品
- たばこなど



あいご



祝島漁港



井戸

かつて「井戸」は、飲み水、台所、洗濯に利用され、夏はスイカを冷やしたり水遊びをしたりするなど、島の中で「井戸バタ」は生活と密着したものでした。



水源地からの眺め

..... 石積の練堀 店 商店 井 井戸 宿 宿泊施設 公共施設 散策スポット ネコ